第48回

上富田町俳句大会入賞作品

特　選　【一　般】

（川口　修　先生　選）

脚垂れて釣糸垂れて夏の川　　小野　道山

水分の神の差配や青田波　　武田　惠子

（城戸　杉生　先生　選）

渡し場にたなびく煙キャンプかな　　久保　年生

東西に南北に窓開けて夏　　宮内　信子

入　選　【一　般】

（川口　修　先生　選）

大鳥居畏み春田打ちにけり　　宮内　信子

はまなすや歯舞へ手のとどきさう　　しちべぇ

花吹雪卒寿の肩に膝に手に　　絽々

雷鳴や糸の通らぬ刺し子針　　絽々

秋風に皇子の声聞く結び松　　谷　美知子

此の谷の空の高さよ栃の花　　尾﨑　均

入　選　【一　般】

（城戸　杉生　先生　選）

肩揉み券使ふ勤労感謝の日　　小野　道山

道東の畠の広さや小麦萌ゆ　　しちべぇ

春寒し待合室はみな寡黙　　凛

千枚田音秘めやかに落し水　　凛

喜雨を得て川一条の光かな　　尾﨑　均

補聴器のトーン整へ小鳥来る　　山本　陽子

今一度滝を拝して帰路とせむ　　片倉　充子

久々の晴に気嫌の赤蜻蛉　　本西　満穂子

グラウンドゴルフ大詰め風死せり　　那須　眞千代

四次元を目指すが如く雲の峰　　田中　利典

佳　作　【一　般】

（川口　修　先生　選）

肩揉み券使ふ勤労感謝の日　　田中　恭司

バスを待つ蝉の集まる木の下で　　小野　道山

クラス会弾む話やソーダ水　　宮内　信子

青田風働き者の母の声　　池田　敬子

初物の焼き鮎届く母の皿　　楠本　悦子

囀や靴紐解けしまま仰ぐ　　千世女

湯の街や医師も似合ひしアロハシャツ　　凛

帰省子の寝転ぶ畳拭きにけり　　初山　紀子

小さき手小さき祈り地蔵盆　　腰前　八重子

代掻きて土の匂いの目覚めけり　　腰前　八重子

咲き揃ふ紫苑今年は丈低し　　石垣　実男

藍染めの装束の映ゆ鮎釣師　　湊　容子

巫女舞のあふぐ滝音厳かに　　尾﨑　均

福角　美惠子

喜雨を得て川一条の光かな　　山本　陽子

母は早や句帳広げて花の下　　山﨑　祥代

聖誕劇小さな胸に十字切る　　山﨑　祥代

濱木綿やいにしえ人は恋を詠む　　堀　あや子

虫の音に犬の両耳ピンと立ち　　永井　富美子

もんどりにやっと一匹土用前　　田中　利典

稲刈りや猿の大群来ぬうちに　　田中　利典

佳　作　【一　般】

（城戸　杉生　先生　選）

農道に転がり出でし南瓜かな　　武田　惠子

東西に南北に窓開けて夏　　宮内　信子

大鳥居畏み春田打ちにけり　　宮内　信子

クラス会弾む話やソーダ水　　池田　敬子

梅干して早二日目の裏返し　　楠本　悦子

凛として淡淡として生身魂　　射場　典子

話には入れぬままや水中花　　初山　紀子

代掻きて土の匂いの目覚めけり　　石垣　実男

炎天や川原の石の犇めける　　石垣　実男

咲き揃ふ紫苑今年は丈低し　　湊　容子

描きなぐるやうに台風迷走図　　尾﨑　均

巫女舞のあふぐ滝音厳かに　　福角　美惠子

稲を扱く母に電球一つかな　　山本　陽子

朝顔は好きな水色誕生日　　森　京子

丹精の友のポポの実今年また　　森　京子

叶ふなら柿の葉すしを望みたし　　浜岡　美哉子

靴音にはたと止むなり虫の闇　　浜岡　美哉子

用水の雲の流れや厄日過ぐ　　片倉　充子

子守宮へ厨の窓の灯を残す　　樫本　正巳

御佛を数多抱えて山眠る　　那須　眞千代